

同窓会報

2015年(平成27年)4月10日発行
 [発行] 四日市大学 同窓会事務局
 〒512-8512 四日市市萱生町1200
 TEL&FAX 059-365-6791
 E-mail dousou@yokkaichi-u.ac.jp

どなたにもご聴講いただける 四日市大学特殊講義のご案内

四日市大学の経済学部と環境情報学部では、正規の講義を一般の方々に開放している「特殊講義」を開講しています。どなたにでも聴講していただけるので、是非、お越し下さい。

経済学部特殊講義

日時	テーマ
4月22日	企業におけるサイバーセキュリティ対応の課題と実践
5月13日	産学連携による商品開発までのストーリーとその事例
6月 3日	金融一筋50年、とっておきの話
6月10日	ツーリズムの力(ちから)

環境情報学部特殊講義

日時	テーマ
4月24日	四日市公害とコンビナート建設
5月 1日	四日市市新総合ごみ処理施設
5月 8日	風力発電・メガソーラーの動向
5月15日	人工林の資源管理と森林の働き

詳細は、四日市大学教学課
 (TEL : 059-365-6716)までお問合せください。

同窓会長ご挨拶

四日市大学同窓会
 会長 伊藤 清(経済学部1期生)

皆さん、こんにちは。
 平素は、四日市大学並びに大学同窓会へのご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

同窓会は、1992(平成4)年に発足し今年で23年目を迎えます。会員(卒業生)は8千人を超え、多くの同窓生達が全国各地、各分野で活躍されています。

本誌で取り上げた卒業生の黒田淳哉さん(総合舞台)は、環境情報学部の2期生として卒業後、アーティストのコンサートや演劇、イベントなどさまざまなエンタテイメントの舞台照明・音響などで活躍され、今春から大学で「照明セミナー」の講師として教壇(スタジオ?)に立たれるとのことをお聞きしました。こうした機会に恵まれた幸運に同窓生として羨ましくもあり、また応援したい気持ちになります。母校で得られた知識、また舞台照明のバイオニアである恩師 山形多聞教授から受

け継がれた感性を存分に発揮され、愛情を持って後輩たちへ伝えられることだと思います。今後、黒田さんのように一度は県外に出られた卒業生も、また地元に戻られて地域と共に生きる人生を選ばれる方が増えることが考えられます。

さて、昨今、安部政権における地方創生の動きが本格化している中、日本経済の発展には地域経済の活性化が欠かせません。また、人口減少や超高齢社会への取り組みとして地方創生を掲げています。大学運営においても「地域社会に貢献する人材育成」を柱として、特に地方の大学は「地域から必要とされる大学」になることを考え、さまざまな事業を展開しています。

開学当初から「世界を見つめ、地域を考える」をスローガンとしてきた四日市大学もまた、これまでの取り組みが認められ2014年度に文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択されました。全国の大学から高い関心が寄せられる中、約10倍の競争率をくぐり抜けたわけですから、同窓生としても誇らしく嬉しい限りです。

そこで大学が地域と連携し地域の活性化に貢献してきたこれまでの実績を紹介します。「各学部の特殊講義」などの一般公開講座をはじめ、暁高校や四日市商業高校、いなべ総合学園高校等「地元高校との高大連携」、外国人との共生を考える多分化共生社会活動、四日市とんてき協会、四日市商店街や多度町との連携を図る「教員による地域活動」などがあります。中でも注目したのは、「学生による地域活動」です。ボランティア部の発足をはじめ、地パト、E TVよっかだい、Aプロ、東日本大震災後の「大震災支援の会」等です。学生が地域に向かい、地域を学習の場として活動し、活力ある地域づくりに貢献

してきた実績は外部からも高い評価を得ています。こうした地域との連携強化にこれからも期待したいと思います。

宗村学長は「地方の大学が少子化に伴う厳しい大学運営に直面する時代、本学がこの状況を乗り越える為には四日市市と連携し、地域と共に発展してきた強みを生かし、地域の知の拠点として存在感を高め、地域から欠くことのできない有用な存在として認識されること以外にはありえない。それは、本学が一方的に地域に貢献するというのではなく、学生が地域の中でたくましく育てられ、本学の教育・研究が地域とつながることで豊かになることである。そして、この事業にすべての教職員が一丸となって取り組む決意がある。」というお話しを伺いました。同窓会としても、地域の未来を拓く大学であり続ける母校に対して、期待と応援に努めて参りますので、引き続き皆さんのご支援をお願い申し上げます。

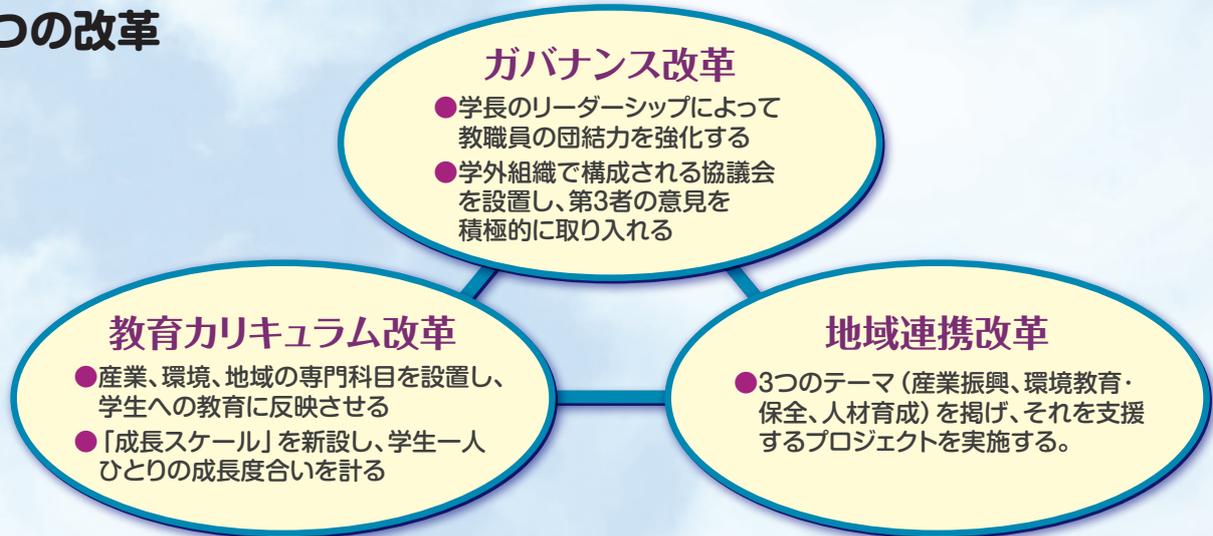


「第24回学位記授与式(卒業式)四日市都ホテルにて宗村学長と伊藤会長」

四日市大学「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」の概要について

四日市大学は、平成26年7月に文部科学省が支援する「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に採択されました。全国の大学から高い関心が寄せられる中、約10倍の競争率をくぐり抜けて採択されたことを、同窓会として誇らしく思います。今後、三重県、四日市市、そして地域の皆さんと連携し、また、ご指導をいただきながら、地域の課題に向き合い、地域と共に学生を育てる大学として改革に取り組み、そして発展されることを期待しています。

1 3つの改革



2 具体的な取り組み

その1

『地域志向科目』…カリキュラム改革の中で、地域に関する専門科目『地域志向科目』を作りました。教室での講義だけでなく、(株)三岐鉄道などの地元企業とタイアップしたイベントなどを企画しています。学外から講師を招くこともあり、学生は現場の声を聞いたり、社会との接点を持つ事で人間的な豊かさを育くむ効果が期待されます。



その2

『学生情報局』…学生が自ら取材・広報を行い、SNS等を利用し学生の視点でCOC事業を捉える活動『学生情報局』を設置し、地域に根ざした情報を地域に対して発信しています。各学部から総勢10名の学生が選ばれ、自主的に活動を行っています。



その3

『わかもの学会』…COC事業を通じて地域を学んだ学生が、自分の活動や研究について地域の方々に報告する場が『わかもの学会』です。「学会」という名前がついていますが、論文や研究の発表だけでなく広く若者の活動を発表することを目的としています。第1回は、3月7日(土)に開催され、多くの方々にご来場いただきました。



その4

『協創ラボ』…『協創ラボ』とは、地域と学生、教員の交流が協働して、教育と研究を行う仕組みを言います。テーマに沿った地域の問題などに関して話し合いを行い、学生にとっては、自治体、企業、市民団体のの方々にも触れ合う貴重な機会であり、それゆえ教育の場でもあります。



3 1人1プロジェクト

『1人1プロジェクト』…大学全ての教員が、地域連携改革の3つのテーマ(産業振興、環境教育・保全、人材育成)を含めた数々の地域の課題について、多様な観点を切り口として活動や研究を行う企画です。

平成26年度に採択された24件のプロジェクトは下の表のとおりです。

特定プロジェクト研究(平成26年度)

番号	代表者(学部)	他構成員	取組名称
1	小川 東(環境)	片山清和・高田晴美	地域に貢献できる人材に求められる数理能力のスキーム構築
2	武本行正(環境)	神長 唯・千葉 賢	新総合ごみ処理施設に併設される環境教育施設に関する調査と企画
3	岡 良浩(経済)	岩崎祐子・鶴田利恵	地域の産業振興策をふまえた経済人育成方策の予備調査
4	松井真理子(総合)	岩崎恭典・小林慶太郎	四日市版「地域コミュニティリーダーシッププログラム」の開発
5	鬼頭浩文(総合)	藤川なつこ	地域防災に貢献できる人材の育成に関する研究
6	神長 唯(環境)	鬼頭浩文	四日市公害と環境未来館との協定書を踏まえた環境教育・環境保全活動に関する調査研究

番号	代表者(学部)	他構成員	取組名称
6	井岡幹博(環境)	岩崎祐子・小林慶太郎	三重県内主要企業における人材ニーズ調査=「みえリーディング産業展2014」参加企業を対象として=
7	藤野 裕(経済)	三田泰雅	四日市市における相対的年齢効果の測定に関する研究
8	本部賢一(環境)	なし	近鉄内部八王子線の利用促進に係る基礎研究
9	富田 与(経済)	D.ダイクス・永井 博・藤野 裕・藤川なつこ	四日市経済におけるリスクの「見える化」とリスク管理の実践のための調査研究
10	木村真知子(環境)	なし	第76回国民体育大会三重大会開催に向けて 県民への周知および協力を呼び掛けるための広報映像の制作
11	岩崎恭典(総合)	田中正明	「成長スケール」作成のための本学に対する三重県内高等学校のニーズ調査
12	若山裕晃(総合)	なし	2021(平成33)年国民体育大会開催に向けた三重県のホッケー競技普及推進活動を地域活性化及び人材育成につなげる取り組み
13	友原嘉彦(経済)	なし	忍者をテーマとした三重県伊賀地方と滋賀県甲賀地方における観光連携の現状と妥当性についての調査研究
14	中西紀夫(総合)	加納 光・高田晴美・谷崎智子	「キャリア基礎」に参加した地域企業との交流会の実施
15	柴田啓文(経済)	池田幹男	地域多言語支援プロジェクト
16	熊澤光正(経済)	なし	トヨタ生産方式の理解と展開の方策に対するセミナー
17	ゴードン・リース(総合)	松井真理子	「教室に元気を運べ:授業に演劇とパフォーマンスを取り入れる方法」研究会
18	三田泰雅(総合)	城之内忠正	漢字読み下し教材の開発

一般プロジェクト(平成26年度)

番号	代表者(学部)	他構成員	取組名称
1	東村 篤(経済)	なし	DiPO模擬会社夢追プロモーションによる地域での支え合いづくり 2つのCIPO(Chief Intellectual Property Officer 知的財産統括責任者、Chief Initial Public Offering 株式新規上場準備統括責任者 DiPO)人材養成プログラム有効実証検証研究
2	牧田直子(環境)	田中正明	北勢地域でのブランドン分布の基礎調査
3	鶴田利恵(経済)	富田 与・岡 良浩	「こども四日市」学生サポーターを通じた経済政策の分析
4	田中伊知郎(環境)	なし	鎮守の森に保存された四日市本来の植生の解明
5	千葉 賢(環境)	武本行正・東村 篤	北勢地域のグリーンツーリズムの拠点づくりのための調査研究

3月21日(土)に「四日市公害と環境未来館」がオープンされ、オープニングイベントとして、特別展が行われました。地元の子供たちの環境に関する作品が展示され、四日市大学も含めた4高等教育機関がブース出展しました。

四日市大学は「四日市公害に学ぶ」持続可能な北勢地域に向けて」というテーマでパネル、動画、学生の卒業論文等を出品しました。



四日市公害と環境未来館へのブース出展

「四日市公害と環境未来館」
オープン



平成26年度 四日市大学学位記授与式

四日市大学は、3月15日(日)に四日市都ホテルにおいて平成26年度第24回の学位記授与式(卒業式)を挙行し、宗村学長より卒業生へ学位記が授与されました。

同窓会の伊藤清会長は来賓として学位記授与式に出席され、卒業生の門出を祝いました。

この日卒業した卒業生は187名です。

今後同窓会の規模はますます大きくなっていきます。皆様のご支援・ご協力をよろしく願いたします。

平成26年度卒業式が
挙行されました。

留学生インタビュー

四日市大学には、世界各地から多数の留学生が学んでいます。卒業後は帰国する方が大半ですが、最近では国内に就職する卒業生もかなりの数になっています。今回は、3月15日に卒業したベトナム出身のホアンフンタオさん、チャンヴァンアンさんにインタビューをしました。

① 日本に留学したきっかけは？

タオ…私が留学について考えたのは、高校生の頃です。日本に住む従姉にいろいろ教えてもらい、日本に興味を持ったからです。

アン…日本は戦後、政治経済を発展させ、経済大国になりました。ベトナムもこのように発展してほしいと思います。そして日本の優れたところを学びたいと思ったからです。

② 来日して、驚いたことは？

タオ…何事にも一生懸命に取り組んでいて、日本人は「まじめ」だと思います。また、ベトナムと比べて、高齢者の方々が元気なのは、びっくりしました。

アン…初めて日本に来て驚いたのは、麺類のすすり音です。そして、歩くのが速いことです。ベトナムではみんなゆっくり歩いているので、歩調を合わせるのが大変でした。

③ 四日市大学で何を学びましたか？

タオ…私は経済学科で学んでいました。いろいろな講義の中で、日本経済や環境問題やマーケティングに興味を持ちました。卒業論文のテーマは、「ベトナムにおける農業と経済発展」です。

アン…私は経営学科で学んでいました。講義では、企業の経営知識や簿記などを学びました。そして学んできたことに基づいてベトナムの経済成長を研究し、卒業

論文にまとめました。

④ 四日市大学での4年間の思い出は？

タオ…大学祭や高校生との交流などで、ベトナム料理や文化など紹介できたことです。これに参加したことで友達が出来、うれしかったです。

アン…大学の先生方はとても親切で、学生のサポートが良く安心して留学生活を送れました。イベントが多く、弁論大会では学長賞を頂きうれしかったです。また出場したことで日本語が上手になったと思います。

⑤ 4月から社会人ですが、挑戦してみたいこと、夢は何ですか？

タオ…自分の役割を自覚し同僚の皆さんに信頼され、社会にとってなくてはならない存在になりたいと思います。そしてボランティアなどで、ベトナムの文化を紹介したりしてベトナムと日本の架け橋になりたいと思っています。

アン…会社や社会に貢献できる社会人になりたいと思っています。そして自分の経験した留学生活などを、後輩に伝え、彼らの留学のお手伝いをしたいと思っています。



左：ホアン フーン タオさん マックスバリュ中部株式会社 就職
右：チャン ヴァン アンさん 住友電装株式会社 就職

『就職活動研修会』開催！

平成27年2月20日(金)キャリアサポートセンター(CSC)では、毎年恒例の「就職活動研修会」を開催しました。以前は四日市内のホテルで1泊2日の日程で行っていた「就職進路指導研修会(就職合宿)」です。日程が1泊2日から1日となりましたが、その分内容はかなり濃くハードなものになっています。参加学生は73名で、スーツに身を包み緊張感を持って研修会に臨みました。

研修会の第1部は「業界研究」。鉄道業から三岐鉄道株式会社、卸小売業からスーパーサンシ株式会社、住宅建設業からトヨタホーム三重株式会社の3社をお招きし、各業界の歴史、規模、特性、将来性、動向、課題と展望そして業務内容を学生にわかりやすく説明していただきました。

続く第2部は「グループディスカッション&履歴書対策講座」。グループディスカッションとは、1グループ7〜8名で、20分の時間制限内に与えられた課題に対して討論し、その様子を面接官が観察評価するものです。初体験の学生が多く、皆が発言できるのか心配していましたが、与えられた課題をグループで協力しながら活発に討論していました。

履歴書対策講座では外部講師をお招きし、履歴書の書き方や注意点などを教わりました。学生たちは「履歴書の重要性が改めてわかった」「履歴書の正しい書き方を知ることができよかった」と口々に話していました。

最後の第3部は「就職活動マナー講座」。挨拶の大切さや入退室の仕方など就職マナーの基本を徹底的に教わりました。「自分が知っていると思っていたことでもマナーは奥が深いな」と学生は感じたそうです。

研修後のアンケートでは「参加して本当に良かった」「就職に対する意識が変わった」「就職活動を甘く見ていた部分があった」などの感想が寄せられました。この研修会に参加した学生たちが、就職活動の先頭に立って頑張ってくれるものと信じています。



初めてのグループディスカッションに緊張する学生



真剣な面持ちで企業の説明を聞く学生

全村避難が続く福島の小中学校へ校歌のCDを制作 葛尾村プロジェクト……

環境情報学部准教授 関根辰夫

きっかけは一通の手紙でした。

福島県に葛尾村という村があり、現在東日本大震災の原発事故の影響で全村避難しています。その村の役場に四日市大学の卒業生である大橋正敏君が勤めていて、その彼からの手紙でした。内容は、現在村民の皆さんが参加される行事などで、校歌を流しているのですが、録音状態が悪く村民の皆さんの心に響くように思えないとのこと、四日市大学で綺麗な音で校歌を録音してもらえないかというものでした。

きれいな音で校歌が流れてきて、BGMなどとして使えたら、今は避難しているけれど、村の平和だった頃の懐かしい思い出に浸れるはずだという思いから、大橋君の考えに賛同し、この企画を立ち上げました。葛尾村の小中学校から譜面と現在の校歌の録音を送っていただき、系列校である暁高等学校の合唱部に協力をお願いしたところ、快諾していただき2014年の12月26日に四日市大学のスタジオで本番のピアノ伴奏と合唱団50人ほどの歌声を録音しました。

これだけで葛尾村にお送りしても良かったのですが、やはり子供達の声が入っていた方が、より親しみやすくなると考えて、避難先の学校に伺って小中学生の歌声も録音することにしました。年が明けて2015年2月2日に避難先である三春町にお邪魔して、小学校の校歌は小学生12人、中学校の校歌は中学生8人の歌声を収録して来ました。

以上の素材を四日市大学のスタジオに持ち帰り、ミキシングの作業を経て完成した音源をCDの

形に仕上げました。早速2月中に葛尾村に送付したところ、ご丁寧な葛尾中学校の校長先生から行事の際などに有効に活用させていただきたいというお礼の手紙をいただきました。

今回のプロジェクトを通じて、私を含め四日市で参加してくれた多くの学生や生徒さんも、被災地に直接出向かなくても被災地の方々の心に寄り添うことができるのだということを、あらためて知らされたと思います。同じような形で音楽や良い録音を必要としている方は、被災地に限らずいろいろなところがあるので、これからもそういう方々の助けになることができたらと思っています。



CDに収録する校歌を合唱した葛尾中の生徒たち



校歌を収録中の葛尾小の生徒たち



コーラスを担当した暁高校合唱部員

四日市大学オープンキャンパス2015

スマイル 四日市大学

事前予約制

スマイル四日市大学
(受験生ページ)から
ご予約ください。

検索



4/19(日)
7/19(日)
9/13(日)

5/23(土)
8/1(土)
10/24(土)

6/21(日)
8/22(土)
12/12(土)

AO入試事前説明会(5/23、6/21、7/19)

毎回テーマをかえて、四日市大学の魅力をお伝えします

大学説明、学部紹介、模擬講義、学食体験、キャンパスツアー
相談コーナー(入試・キャンパスライフ・奨学金など)



懐かしの先生は、今・・・新田義孝先生

さようなら四日市大学

18年間勤めた四日市大学をとうとう去る日を迎えました。3月14日は卒業生たちの交流会（通称OP会）を行い、50名がプラトンホテルに集まりました。今まで毎年夏に小旅行をしてきたのですが、ちょうどゼミ発足10周年の時にも50名が湯の山のホテルに集まったのを懐かしく思い出します。

環境情報学部の学生諸君には地球環境論と資源エネルギー論の授業を18年間行ってきたし、経済学部・総合政策学部の諸君には科学技術概論を3年間講義させて頂きました。どの講義でも、毎回授業の初めに課題を出して小論文を提出してもらったか、授業のレジュメ（まとめ）を作成して提出してもらいました。最初のころは受講者が多かったのですが、一



枚一枚にコメントを書き込むゆとりがなく、単にABCの評価結果を示すだけでなく、学生数が減ったのを機に、一行以上のコメントをつけて次の授業にお返ししてきました。それがどの程度学生諸君の「気持ち」に届いたかは分かりませんが、やってよかったと思っています。

ゼミでは二年生には一年間ディベートを行いました。これが一番効果があったようで、「先生の教育効果はあったよ！ディベートで培った複数の筋道を考える力は社会力になった」と、何人かから誉めて頂きました。さらに、隔年でゼミ生中心に海外とくに豪州クイーンズランド大学に2週間（初期の頃は3週間）連れ出しました。これも良い刺激になっただろうと思っています。但し、1・2期生には未だその準備ができていなかったりで、タイ、プーケット近傍でのマングローブ植林を体験してもらいましたし、SARS問題で海外渡航禁止令が出た5期生には西表島で3週間の環境保全ボランティア活動を味わって頂きました。これには新田ゼミ以外からも多く参加され、良い体験をして頂きました。

9月には中部原子力懇談会三重支部殿のご協力を得て、一泊のバスツアーで発電所などエネルギー施設見学をしました。普通では入れない場所、今では絶対に入れてもらえない原子力発電所の炉心

の上のフロアーなど、今思えば手に汗にぎる経験が出来たように思います。エネルギーとりわけ電力を供給することの大変さを実感して頂けたと思います。

春、四年生が卒業する直前には「ディベート合宿」。全学年でディベートや模擬国連をしたのは愉快的な思い出です。新田ゼミに入る予定の1年生も参加しました。

日頃から研究室をゼミ生たちに開放していましたが、ゼミの行事には全員参加が原則でしたから、前後2学年は少なくとも1年間はお付き合ひがあり、交友の和が学問を通じて広がったと思います。

四日市大学に赴任して、特に最初の3年間はゼミ生を企業研修つまりインターンに出すのに精出しました。灼熱の中を学生を連れて大阪の中堅企業の工場を訪問してお願いしたのは、自分が若かったから出来たことでしたし、中部電力の関連会社に環境計測のインターンシップをお願いした時に、二人の男子学生が揃っ



環境調査中の新田先生と高橋先生

て下向いて一言も発してくれなかったことも、懐かしい思い出です。何故なら、彼ら二人とも社会にでて大成功しているから。

何が教員として嬉しいかというところを超えて行った卒業生たちが沢山いることです。4年で卒業して30歳のころに「先生、10歳年上の部下を持たされた。どうやって指導したらいい？」と質問してきた若い部長。ロンドン市内で、ぼったり出会った「英語特訓」卒業生二人。一人はロンドンの世界一の経済学大学院生、もう一人はロンドン大学ビジネススクール大学院生。前者は私のゼミ生で、今、OECDの国際公務員をしておられます。

最後に1期生から8期生まで毎年大学院に進学出来たことは私の誇りです。



2008年のモンゴル研修

頑張ってます、同窓生

(総合舞台勤務)

2015年より環境情報学部助教を併任

黒田 淳 哉 (環境情報学部二期生)

大学を卒業して十数年が経ちました。あれから結婚し子供を授かり、また順調に歳をとっています。気持ちは今でも学生の頃と変わってはいませんが、同僚からはすっかりおじさん扱いをうけています。現実に抗いながら毎日を楽しんでいます。

私は当時まじめな学生とは言えませんでした。現実から目を背け夢と自分の可能性だけを信じていた無邪気と言います。大学では照明セミナーを専攻しており、恩師の導きのもと東京の照明会社に入社しました。間抜けで頭でっかちだった学生は完膚なきまでに叩きのめされました。大人になる必要がありました。

ライブコンサートで全国ツアーをまわったり、海外で仕事をしたりなど常に自分のキャパシティを超える仕事をさせてもらっていました。大変でしたが、その経験があつて今の自分があります。会社ならびに、この道に導いてくださった恩師、四日市大学に言葉で言い表せないくらい感謝しています。

数年前、東京デイズニールゾートに Cirque du Soleilの専用劇場がありまして、そこに出向していました。残念ながら東日本大震災の影響もありCloseしてしまいました。あの震災は私の人生の分岐点でした。震災が起きた数日後には地元に戻る決断をしていました。地域に密着した仕事をしたい、地元に戻りたいという気持ちで沸々と湧いていました。運よく名古屋に移動が決定し、さらにその後、四日市大学で講師をする事が決まりました。理想が現実となりました。2015年から講義を数コマと照明セミナーの講師を務めさせて頂く事になりました。自分自身も驚いています。照明の世界に導いてくださった恩師の為、大学の為、また四日市の為の良い講義をしたかと思っておりますし、地元に戻りたかったチャンスを頂いた事に感謝しています。

四日市大学

コミュニティカレッジ

コミュニティカレッジは、地域社会への貢献として、四日市大学の設備や人的資源を活用する目的で作られました。大学だからこそ供給できる教育・研究資源を、学部学生に対する教育や学部内での研究のみに活用するのではなく、地域住民、地元企業や地方公共団体などで働く人びとに積極的に開放しています。

講座は、年間5クール(4-5月期・6-7月期・9-10月期・11-12月期・2-3月期)で実施され、6コマを基本に、パソコン・英会話・フラワーアレンジメント・絵画・社交ダンス等、様々な講座を開講して、地域住民皆様の多岐にわたる生涯学習のニーズにお応えいたしております。

詳細な日程につきましてはパンフレットまたはホームページにてご確認くださいませ。ご興味だけありましたら、お気軽にお問い合わせくださいませようお願いします。

同窓生の方は

2割引

体験受講受付中!!

お問い合わせ

コミュニティカレッジ事務局
TEL: 059-365-6615

ホームページへのアクセスはこちら

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/caeb/>



同窓会掲示板

平成27年度 同窓会総会のお知らせ

平成27年度の総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。当日は総会終了後、昼食会を予定しています。

お手数ながら、同封の返信用ハガキにより、総会及び昼食会の出欠のほどを5月10日(日)までにお知らせ下さい。皆様の多数のご出席を心よりお待ちしております。

日時：平成27年5月30日(土) 11時から

場所：四日市都ホテル 3F(金扇の間)

昼食会：総会終了後、昼食会を催します。

審議事項：①役員について

②平成26年度事業・決算・会計監査報告

③平成27年度事業計画(案)・予算(案)

④その他

四日市大学に女優 「広瀬アリスさん」がやってきました。

女優 広瀬アリスちゃんが、「ビタミン炭酸MATCH」のCM撮影の為、四日市大学にやってきました。

大学がCMのロケ地として選ばれた理由は、このCMは学園シリーズとして都心から離れた地方の学校などを中心に制作されており、ホームページに掲載された大学の施設「情報センター」が、制作会社の担当者の目に留まったことから声がかかったそうです。

CMの放送は、秋以降に放映されるそうです。ご覧になられて、情報センターに気づかれた方は、かなりの四日大マニアかも…。それにしてもメチャクチャかわいかったなあ♡

四日市大学同窓会 フィッシングクラブ会員募集!

筏釣りを中心に活動しています。まだ少人数(しかも初心者)での活動ではありますが、釣りを通して少しでも同窓生同士の親睦を深めればと思います。今年の秋には、いきなりではございますが筏釣り大会を企画しています。経験なんて全く関係ありません。興味さえあれば誰でも楽しめるのでは!? まずは、会員登録から!

【申し込み方法】

メール送信先 dousou@yokkaichi-u.ac.jp

件名に「釣り仲間希望!」と入力してください

氏名、卒業学部、メールアドレス、住所等連絡先

※会員の方には、活動情報等を随時送信させていただきます。

担当：フィッシングクラブ代表 鈴木(経済学部1期生)



編集後記

早々と開花した桜のもと、年度末の職場はバタバタと忙しいなかで会報の原稿の締切を迎えることとなりました。諸先生方ならびに卒業生の皆様方の多大なるご協力を得て無事に校了までとりつくことができました。紙面を借りて心からお礼申し上げます。

今年度から、総会開催時期の見直しと会報発行の前倒しが決まりました。今後、これまでとは違ったフレッシュな世代にも参加していただけるような紙面企画にも取り組んでまいります。

同窓生便り

経済学部経営学科 1999年卒業 8期生の水谷吉孝です。

卒業後は、希望でありましたホテルに就職し現在は、四日市都ホテル営業部(セールス)として日々頑張っております。

大学をはじめ晩学園全体のご担当もさせていただいており、社会人となってからもこうして卒業した大学と関係をもてることに幸せを感じております。

仕事の中でも、お客様が四日市大学の卒業生だと分ると一気に親近感がうまれお互いにとってより良い関係を築けます。卒業生が、母校愛と築かれていく絆によって活躍することが、四日市大学(晩学園)の発展に貢献することに繋がると思います。

これからも、常に前向きな姿勢と笑顔で四日市大学の卒業生としての誇りをもって頑張っております。

四日市都ホテルをご利用の際には、是非お声掛け下さいませ。卒業生の方々とお会い出来る事を心より楽しみにしております。

水谷 吉孝(経済学部経営学科8期生)

四日市都ホテル 営業部(セールス)

婚礼・宴会予約 ☎059-355-2806



第10回 同窓会ゴルフコンペのご案内

四日市大学同窓会会員がゴルフを通じて親睦を深めるための会です。毎年、20数名の自称石川遠くんにエントリーしていただいております。今年は記念すべき10回を迎えることができました。

年々参加者も増え続けている中、昨年は、経済学部2期生の坂田くん(1993年卒)が優勝し、「勝てない相手はもういない(by織織)」発言が飛び出すなど、とにかく楽しくゴルフ親睦会を目指しています。

2年連続の同会場での開催となりますが、皆様、是非とも、友人・先輩・後輩をお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

①日 程：平成27年5月24日(日)【集合9:00】

②場 所：伊勢中川カントリークラブ

③会 費：3,000円(パーティ代+賞品代)

プレー代10,000円(乗用セルフ・昼食付き) 個人精算

④申込期限：平成27年5月13日(水)

⑤申 込 先：下記までメールまたは電話でお申込ください。

E-mail: dousou@yokkaichi-u.ac.jp

TEL (059) 365-6588 (四日市大学 佐藤まで)

⑥幹 事：経済学部2期生 坂田

懐かしい大学周辺の Gourmet Shop Report No.1 飲食店を訪れる。

大学時代に友人・恋人と出かけた大学周辺の飲食店…。久しぶりに訪れる懐かしい時間。

大学から車で5分。珈琲の香りが漂う。桑名に本店を置く「珈琲ホリ」店名はハレルヤだった頃もあったと記憶している。ランチやディナーにはパスタ、ティータイムとして珈琲やケーキも楽しむことができる。久々にランチの時間に訪れ、サラダとデザート、ドリンクがセットになった生パスタセットを注文。モチモチな食感の麺が濃厚なソースとからみあう。今回、デザートとして、ホリ名物のロールケーキもいただいた。優雅ではごりした時間が過ぎせるお店。是非、休日におでかけください。(文・写真 黒田)



珈琲 ホリ

住所：三重県四日市市萱生町1311-2

TEL：059-338-0737

営業時間：7:30~21:00(OS)

定休日：年中無休

http://www.rakuten.ne.jp/gold/hori-coffee/